

法人経営の実際  
集落を守る！ 低コスト飼料用米生産  
**農事法人おくたま農産**

代表理事・組合長 佐藤正男

第2回稲作コスト低減シンポジウム 報告資料 (2016.12.19 農林水産省7階講堂)

**(農) おくたま農産 (一関市千厩町奥玉地区) の概要**

**(1) 奥玉地区の特徴**

- ①千厩川上流の8つの集落からなる → 千厩川の水利用で、つながっている
- ②室根山の麓(正面) → 話題の中心は御山のこと
- ③ 水稲+畜産園芸たばこの複合経営 → 米という共通基盤と多様な担い手
  
- ①基盤整備事業=今集落毎に営農組織設立 → 高齢化と担い手不足で存続の危機
- ②7つの営農組織を統合し、農事組合法人へ → 組合員数約340名理事14名でスタート
- ③基盤整備集積率95.7%(177.8ha/185.8ha) → (農)おくたま農産が集落の担い手に

**おくたま農産の経営方針**

**(1) 組員の信頼を得る**

- ①地区の農業所得を増や<sup>℃</sup>、借金をしない。
- ②労働力・費用・苦勞を減らす。
- ③農地を地区の共同財産として活用する。
- ④作物を団地化し、土地生産性を高める。
- ⑤6次産業化など付加価値を高める。
- ⑥所得を地区内で循環して、地区経済を活性化する。 → 実現のため、営農と経営の努力

**(2) 無借金経営を心掛ける (農業の借金は難しい)**

- ①常に天候との戦い
- ②農政や石油相場などの影響を強く受ける → 安定して利益を上げることが難しい
- ③借金があると組合員に不安が生じる

**稲作のコスト低減にむけた工夫**

**(1) 田植えの無駄を減らす (田植えは最大のコスト要因)**

- ☆当初「各集落平等」  
→集落毎に田植機1台、オペレータ1名、補助員2名
- ☆「集中作業」  
→1筆に田植機2台、オペレータ2人、補助員2名  
→1日4haの田植作業【費用は標準作業料金の1/4】

**(2) 更なる低コスト化を目指して (全面積に直播栽培を導入)**

水稲苗は全量購入していたので、10a当たり種苗費18,500円=今5,200円

**(3) 飼料用米の導入**

- ①平成20年に初めて飼料用米を作付 → 「農商工連携J」で地元養豚農家と15ha契約栽培
- ②「一関地方直播栽培研究会」に参加 → 展示圃を設置し技術研鑽
- ③良田への飼料用米栽培 → 圃場条件に合った品種選定

**(4) 省力化技術の導入 (ホパークラフトによる除草剤散布)**

直播栽培面積（うち飼料用米）

H27: 115ha（50ha）

H28: 105ha（80ha）

### （5）収穫作業の改善【稲作最後の難関】（米は最初から最後まで水加減）

☆水管理と畦畔草刈り → 各地区営農組合に委託

☆9/5までに落水 → 状況を理事が巡回点検

#### 確実なコンバイン作業!

（5）収穫作業の改善【稲作最後の難関】

☆当初「各集落平等」 → 集落毎にコンバイン1台、トラック1台、オペレーター1名、補助員1名

↓

トラックかコンバインが遊んでいる

↓

理事達で改善方法を実験

☆現在「集中作業」 → 1筆にコンバイン3台、トラック1台、オペレーター3名、補助員1名

単位面積当たりの費用標準作業料金の1/5に

#### ☆現在「集中作業」

#### ☆更なる効率化を目指して

「1ha単位での収穫作業の短縮」

当初 コンバイン1台、トラック2台 ⇒ 2時間

⇒ コンバイン2台、トラック4台 ⇒ 1時間

⇒ コンバイン3台、トラック4台 ⇒ 20分!!

#### 田んぼの外でもコストを下げる

（1）高性能機械の導入【機械は自己資金で買う】

農業経営強化準備金制度を活用し、積立資金内で購入

必要な機会を選ぶ

現金払いで有利に買う

管理者を決めて大切に使う

（2）農業機械の修理点検

【機械を大切に扱えば、報いてくれる】

当初、メーカーに委託1台60～70万円

↓ 費用年々増加・・・

☆平成22年、理事4名で機械管理部を設置

※ 始始業前点検 農閑期修理 → コスト削減、 → 農作業安全!!!

※ でも農繁期は、メーカー!に修理依頼（委託）

（3）施設整備 **施設は最も危険な赤字要因**

①機械格納庫 中古の大型テントを活用

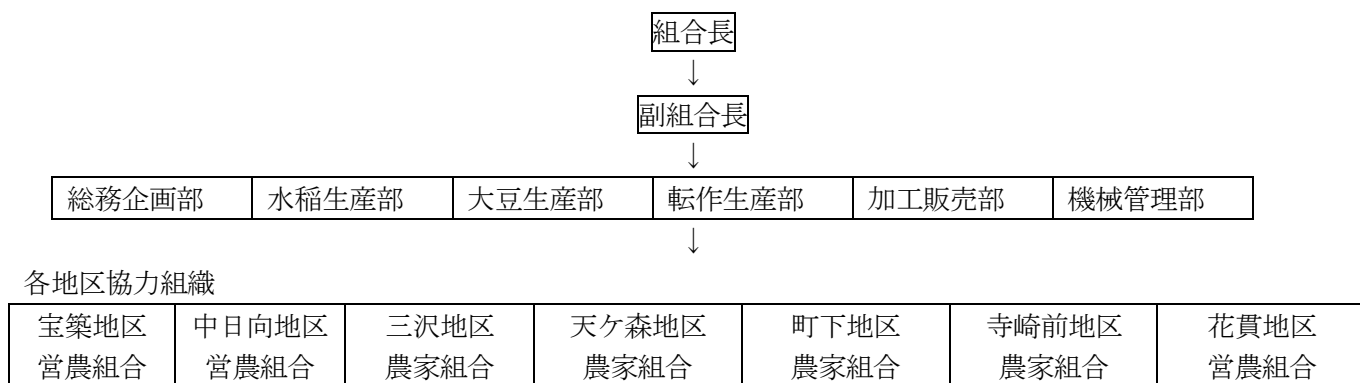
②加工苗貯蔵庫 冷凍車の無償譲渡品を改造して活用

#### （農）おきたま農産の今後

（1）組織機構図

組合員より選出された役員(理事 7 名、監事 2 名)により経営管理を行い、6 部門で経営管理

**奥玉地区営農組織連絡協議会を構成する生産組織、農家組合、管理組合を協力組織として位置づけている**



## (2) 法人経営の充実

☆ 6 部門制

⇒ 部門ごとに権限と責任を明確化

☆ 役員が部長 (**意思決定の迅速化**)

☆ 事務経理は役員で分担 (**経営把握**)

☆ 7 組合制

- 集落への連絡体制
- 園場管理で組合員全員参加

## (3) 地域の後継者を育てる

**【法人の総合能力を生かす】**

- ① 組合員に**かっこいい姿**を見せる!
- ② 法人が研修窓口、各種サポート
- ③ 高度な技術を持つ組合員で鍛える
- ④ 就農初期は作業受委託等でサポート
- ⑤ 経営拡大は法人が土地や労働力をサポート

## (4) 集落農場の実現に向けて

☆ 奥玉地区の構成員 340 名、経営面積 176ha のまとまりを生かしていきます。

☆ 多様な担い手が地区を牽引する組織に発展させます。

☆ 若者や女性が生き生きと活躍できる場を作っていきます。

## (5) 今後の方針

「創業は易く、守成難し」という諺がありますが、豊かな地域農業の確立と存続のために、340 名の組合員が力をあわせ、先人達が守り育ててきた、地域の歴史、文化を後世に受け継いで参りたい。

以上



いちのせき市民活動センター

<https://www.center-i.org/>

## 基本情報

- ◆代表理事組合長：佐藤 正男さん
- ◆連絡先：〒029-1111 一関市千厩町奥玉字宿下 21
- ◆電話：0191-56-2301
- ◆FAX：0191-56-2301

## 一歩ずつ前へ前へ、地域営農の挑戦、地域農業をみんなで守り残していきたい

千厩町奥玉は、中山間の、水稻・畜産・野菜・花など昔から農業を中心に営んできた地域です。

平成7年、奥玉地域のほ場整備事業の展開と農業の後継者不足や耕作放棄地等の地域課題をきっかけに、農業従事者有志らが話し合いを持ち、平成19年に7つの集落営農組織が統合し、農事組合法人おくたま農産が発足しました。同法人は、340名の組合員がおり、178ヘクタールの農地で水稻を中心に、大豆・飼料用米・トマトや白菜などの野菜を生産しています。

発足当初から、水稻生産・大豆生産・飼料米転作生産・加工販売・機械管理・総務企画の6つの部を組織し地域に合った営農の取り組み方を工夫し、信頼と寄り添いを大切にしながら法人運営をしています。

## 課題とチャンスは隣り合わせ

「法人発足から今まで私たちは黒字経営をしています。借金は絶対にしない」と語るのは代表理事組合長の佐藤さん。もともと酪農を専門とし、自身の後継者不足にも悩み、平成23年から酪農から身を引き、経営者として益々地域農業に力を注いでいます。効率的な営農を実現するため、地域の農家をまとめ農事組合として法人化した当初は、「設備投資で借金だらけになるのでは？」という不安をもった住民も多く、「3年もてばいいほう」と語る人もいたとか。そんな中、法人として掲げた経営理念が「無借金経営」「コスト削減」「効率化」の3つでした。

「確かに、農事組合法人の大方は初期投資として多額の資金を借り入れ、その返済に苦労しているようです。いかに借金をせずスタートしていくか、大きな課題でした」と当時を振り返り、「そんな中、偶然にも好機が訪れたんです」と続け「タイミング良く、国による近隣河川の改修工事が始まり農道や農業公園を売却。それにより、事前資金での設備投資が可能になったのです」と佐藤さんは語ります。

「できることは出来る限り自分たちの手で行う」ことをモットーにしている同法人は各部からの提案を受け入れ、コスト削減も強化。特に機械管理部では可能な限り自分たちで農業機器のメンテナンスを行い修繕費の節約をしています。また、全組合員から土地を借り上げ、農地を一元管理することで大型農機具を効率的に使用し、時間や人員配置に余裕が持てるようになりました。その結果、効率化で生じた余剰労働力を活用し、6次産業にも取り組んでいます。同法人事務所に隣接する工房「あらたま」は農家のお母さん方が大豆を利用した味噌などの製造・販売に取り組み年々売り上げを伸ばしています。

## 喜びを分かち合うのも地域と共に

同法人では毎年12月の第1日曜日を収穫祭の日としています。収穫の喜びは、組合員だけではなく子どもから高齢者まで、地域の方々も多く参加。餅つきや餅のお振舞の他、芸能発表なども盛大に行われ地域が一つになって一年の収穫をお祝いし食します。

「農業というのは、楽しみながら喜びをわかちあう仕事。楽しくやるためには、アイデアと挑戦そして細かい計算が必要。地域の企業として時代に合った農業人の生き方を営めるよう、今後も法人運営をしてきたい」と最後に力強く語る佐藤さんでした。



地元産の物を地元で加工して、地域の みんなで食す（隣接の工房「あらたま」）